

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第52号 R3. 8. 25

豊能町夏季教職員研修（第1講座） ～小中一貫教育～



山口偉一校長先生のご講演

7月26日、豊能町立ユーベルホールで、夏季教職員研修会を開催しました。講師として、義務教育学校姫路市立白鷺小中学校校長の山口偉一先生をお招きし、『小中一貫カリキュラムの意義と変遷～姫路市のグランドカリキュラムを事例として～』と題して、ご講演いただきました。姫路市では、小中一貫カリキュラムが作成されており、白鷺小中学校では先進的に取り組みが進められています。

山口校長先生には、小中一貫カリキュラムの意義や作成時の留意点、小中一貫カリキュラムを生かした授業実践等について、分かりやすくご講演いただきました。

本町では、来年度から義務教育の9年間をつなぐ「小中一貫カリキュラム」の作成を始めます。今回の研修で学んだことを土台にし、めざす子ども像の具現化に向け、先生方と共にカリキュラム作りを進めていきます。



保幼小中の先生方が参加されました。

研修会に参加された先生方の感想を一部抜粋してご紹介します。

- ◆主体的に探究する力のある生徒を育てたいと思った時、探究する力は技能であり、日々の授業や生活でこの力を育てたいと、自分の中の認識が変わりました。(中学校教員)
- ◆小学校で学習するレベルや段階を知り、中学校で授業をするときは、小学校の復習から始まる授業に取り組みたいと思います。(中学校教員)
- ◆カリキュラム作成において、発達段階をきちんとおさえておくこと、めざす子ども像を十分に時間をかけて考えることが大切であることを学びました。(小学校教員)
- ◆小中が融合することはとても大事なことで、ここに保幼も加わり、より一貫した豊能町の教育をしていきたいと思いました。(就学前教員)



バスケットゴールを寄贈していただきました

プロバスケットボール選手の今野さんが、ふたば園、ひかり幼稚園、吉川保育所にお越しくださり、バスケットゴールの寄贈式を行いました。現役の選手に、両手ドリブルやハンドリングの技を見せてもらおうと、歓声を上げて感動していた子どもたち。なかなかシュートが決まらず、あごの下からシュートするというコツも教わりました。筋肉モリモリで体の大きな選手に抱っこしてダンクシュートをさせてもらい、ゴールの成功体験を実感し笑顔いっぱい大満足の様子でした。



各学校園所の取組みを家庭の教育に ～めざす子ども像の実現に向けて①～

本町では、めざす子ども像を“豊能町に誇りをもち、自信をもって社会を生き抜く子ども”とし、地域・保護者・教職員みんなで責任をもって、子どもたちを育てることをめざしています。各学校園所の取組みを知っていただき、家庭での教育にもつなげてもらいたいという願いで、第52号（本号）から、それぞれの取組みを紹介します。

～感性をはぐくむどろんこあそび～（吉川保育所）

乳幼児期の夏ならではのあそびの一つに砂・土・水を使ったどろんこあそびがあります。乾いた砂・湿った砂・小石混じりの地面・乾いた土・泥の上を裸足で歩くことで、足の裏で様々な感触を感じながら遊びます。砂や土の冷たさや温かさ、「サラサラ」「ザラザラ」「ブツブツ」「にゅるにゅる」など感じたことと言葉にすることで表現する力も育ちます。また「乾いた砂をフルイにかけるとサラ砂ができるけど、湿った砂ではできない。」「サラ砂で型抜きしたら崩れるけれど、湿った砂だときれいにできる。」「乾いた土ではお団子はできない。」など遊びながらいろいろなことに気づきます。砂場では、砂の型抜きや葉っぱをお皿にのせて食べ物に見立ててお店屋さんごっこ、スコップで温泉、山、ダム作り。どろんこ池では泥団子作りや全身にどろんこパックをして大胆に遊びます。加える水の量で硬さや感触が変わり、自分のイメージに合わせて遊ぶことができ、想像力や創造力も育ちます。また一人でじっくり遊びこんだり友だちと協力し合って作り上げたりする中で、時には思いがぶつかりトラブルになりますが、集中力や人とかかわる力が身につきます。どろんこあそびは、思いきり遊ぶことで、心が解放され、満足感が得られ、自己肯定感も育つと言われています。この楽しいどろんこあそびを保育所でたくさん経験してほしいです。

文責 うえだみゆき



まんまる団子
作ろう！



どろんこ
気持ちいい～

「第2回吉川中学校区学校運営協議会設立準備委員会」開催

8月5日、第2回吉川中学校区学校運営協議会設立準備委員会（準備会）を開催しました。感染症対策を行い、昨年10月以来の集合開催となりました。今回の内容は以下の通りです。

1. PTA部会の立ち上げについて
2. 吉川中学校区学校運営協議会のめざす方向性について
3. 地域にある既存の組織について
4. 熟議「地域が学校のために応援できること」

◆参加された委員の方の振り返りより（一部抜粋）

- ・今の子どもたちが20年後如何にあるべきか、現状の課題を埋めるための資源について語り合えばよい。
- ・実際に顔を合わせて意見を出し合うことの大切さを実感しました。
- ・“子どもたちも含めて考える”というような発言があったと思うが、その通りだと思っている。
- ・地域の方を便利屋さんとしてではなく、スペシャリストとして力を貸していただくことが大切だと感じた。

